

# 在来線守る努力を

## 真下議員 赤字新幹線も追及

### 北海道議会

北海道民の掛け替えのない鉄路をどう守っていくのか―日本共産



知事の姿勢をたがす真下道議 11日、北海道議会

党の真下紀子道議は11日、道議会予算特別委員会の知事総括質疑に立ち、JR北海道の新幹線赤字、路線存続問題で高橋はるみ知事を追及しました。

JR北が主要幹線の廃止まで狙っていることに、自治体首長やJA、地域経済界は強く反発しています。さらに、北海道新幹線建設に道の負担金が2005年度から17年度までに約1160億円つき込まれたことが判明。札幌までの延伸に、いっそうの負担が必要となつていきます。

JR北が主要幹線の廃止まで狙っていることに、自治体首長やJA、地域経済界は強く反発しています。さらに、北海道新幹線建設に道の負担金が2005年度から17年度までに約1160億円つき込まれたことが判明。札幌までの延伸に、いっそうの負担が必要となつていきます。

高橋知事は「JRに新幹線の収支見通しや収支改善に向けた方策をできるだけ早く明らかにするよう求める」と人ごとのような答弁に終始。自らの責任には口をつぐみませんでした。

下氏は「膨大な赤字を発生させている新幹線の経営改善が見通せない」と、13路線すべてに懸念される事態だ」と批判。「新幹線建設促進と札幌までの開業へ先頭に立って旗振りをしてきた知事の責任は重いと厳しく断りました。

真下氏は、16年8月の台風被災から不通の根室本線（新得―東鹿越間）で道が総合交通政策指針に路線の重要性を書き込み、地域と協議するとしていると強調。「知事から国に復旧を求め、地域と話し合い、路線をつなぐ努力をすべきではないか」と迫りました。

高橋知事は「地域が必要とする情報を提供し、地域とともに議論を尽くしていく」と、国に要請する明確な意思は示しませんでした。